第7回 地域人権問題全国研究集会

憲法を暮らし反活かし、住みよび地域

2011年 7月15日 第1102号

1972年9月18日

### 全国地域人権運動総連合 (「解放の道」改題)

〒116-0003 東京都荒川区南千住2-16-6 TEL (03)5615-3395 FAX (03)5615-3396

全国人権連ホームページ: URL=http://zir.sakura.ne.ip



### 差別と戦争 高2の差別体験で人生観変わる 掃を熱演

火葬場労働の目線で社

りの奥底にすがるような が「差別と戦争をなくす 題して一人芝居とトーク 生命の願いがあった」と きた女優の有馬理恵さん 勉原作の『釈迦内柩唄』 会の差別構造を描く水上 で全国で447回演じて をライフワークにこれま にめに<br />
一震えるような怒 演じ、自分と一体化させ 父親を焼く娘・ふじ子を 迦内柩唄』 に出逢ってな わったと有馬さん。 かったら、私は一生、 校時の体験で人生観が変 苛まれ生きていたと思 別に対する怒りと恐怖に 「もし、17歳のとき 『釈

(3面詳細

応える報道姿勢が求めら は国民の「知る権利」に で始まった。報道各社に

 $\widehat{S}$ 

衛隊の役割から国民の目

を逸らさせる▼原発ゼロ

にむけた取り組みも各地

歌山県での全国研究集会は全解連当時の開催から11年ぶりです。1日目の全体集会の記念講 会が6月25、26の両日、和歌山県白浜町で全国から1200人が参加して開かれました。和 演は女優の有馬理恵さんが「差別と戦争をなくすために」と題して一人芝居と講演で、差別 への怒りと人権の尊さ、平和を語りました。 全国地域人権運動総連合と和歌山県実行委員会が主催した第7回地域人権問題全国研究集

奏でオープニング。 らの参加者を歓迎する演 元「清姫太鼓」が全国か 全体集会に先立って地

大震災と東京電力福島第 全国人権連議長は東日本 主催者挨拶で丹波正史 原発や貧困問題の深刻

ングは勇壮な清姫太鼓 めに、「地域権利憲章 の歴史に記憶される年に なり、本研究集会のテー を守るルールある経済 け、国民の暮らしと権利 し、住みよい地域社会を\_ た。北條哲生和歌山

産党の宮本岳志衆議院議 来賓あいさつで日本共

別」に怒りと恐怖をも 母方の祖父母からの で記念講演を熱演。 ち、芝居「釈迦内柩唄 に感動して失神。この高 思春期の多感な時期に の実態を「自己責任」と のイラク日本人人質事件 す境地になったと。

り会場全体から拍手を浴 で演じ、講演を締めくく 語」をショートステージ られた「ロラマシン物 日本軍「慰安婦」にさせ 在り方を批判。 目線で語りかけ、付和雷 バッシングされた家族の 同する世論とマスコミの さいごにフィリピンで ークでは04年 での運動を歴史的に総括 国地域人権運動総連合ま する必要があることから 前の全国水平 付連が 承諾。 で協議がすすめられる模 全水9周年記念集会」 、権連は地元 からの準備

活かす行政。パンダと南 す」とエール。開催地白 対策本部を設置、被災地 は3・11大震災の翌日に 員が「人権連のみなさん 方熊楠の町。事実を瞳の 浜町の水本雄三町長は どの活動に敬意を表しま 害で脱原発を要請するな 地自治体に送付。原発災 双援で義援金を募り被55 「白浜は憲法を暮らしに

第8回記念集 釆年は京都開

さにふれ、これまでの価

いものがありますと歓迎 値観を大転換させ、地域 社会で人権が確立するた が討議される意義は大き マ「憲法を暮らしに活か 実行委員長は、3・11の 社会づくりを呼びかけま を組織の総意でまとめあ へ<br />
震災と<br />
原発事故は<br />
日本

水平社が京都・岡崎公会 ることで母方の祖父を許

来年2012年は全国 堂で創立して 部落解放運動連合会、全 会、部落解放同盟、部落 戦後の部落解放全国委員 さわしい内容として、戦 都府連に開催を打診、同 解放同盟正常化連、全国 に当たる記念 元の人権連京 が年。全国 -社運動から 90周年にふ

途紹介) ユーモアい あいさつ。 ごとく大事 っぱいに歓迎 来賓名は別 にする町」と

かけました。 を採択、国家機関が「差 事務局長が基調報告のな 別講演。新井 廣畑研二氏が 別糾弾」を 新綱領で「差別糾弾闘争」 かで「解同」が今年3月の 者来須七郎」 る水平運動史、水平の行 後、日本近代 法」の動きに 人権侵害救済機関設置 有馬理恵さ 催で 合法化する 7史研究者の 警戒を呼び から90周年 と題して特 直樹人権連 (4面詳細) んの講演の 「知られざ づく報道の一端である。 りのままという信念に基

着取材。感情を誘導し過 その一方で自衛隊員に密 因探求はほとんどない。 は熱心だが原発破壊の原 きたマスコミ。災害報道 学者たちの声を無視して ない」と警告してきた科 る。「原発は危険極まり 大評価、そして本来の自 応でより実感させられ 福島原発破壊の内実と対 避難地の現状を映し出し 像できない被災地、原発 た▼真実の報道がいかに 日常のテレビからでは想 大切であるか、この間の

測定しながら、事実をあ 写真も提供。被曝線量を 与えた▼有馬さんは、夫 という確信にもとづく熱 別と戦争を心の底から憎 の代表理事でもある。差 の郡山総一郎さんが福島 演は参加者に深い共感を の気持ちが必ず存在する 魔」に打ち勝つ「天使」 恵さん。日本平和委員会 け入り撮ってきた現場の 原発の避難地域にまで分 本流 一人ひとりには「悪 会の記念講演は 俳優座の有馬理 第7回地域人権 問題全国研究集

主催者あいさつ

第7回地域人権問題全国研究集会和歌山県実行委員長

北條

哲生

# 主催者あいさつ

## 第7回地域人権問題全 を統一テーマに、地域人

全国地域人権運動総連合議長

丹波

正史

確に打ち出していく時期

を暮らしに活かし、貧困 の解消へ役割を終えた なさんに心から敬意と感 国研究集会にご参加のみ す。この集会は、「憲法 謝のあいさつをいたしま 『同和』対策は終結を」

翼として開催されています。 お見舞いを申し上げま 災された方々に心からの の深い哀悼とともに、被 権確立をめざす運動の で犠牲となられた方々へ 私はまず東日本大震災 す。また、被

げている多く の皆さんに心 めに全力をあ からの敬意を 巨大地震と 興の土台」と位置づける 地域社会の再建こそ、復 のためにも「生活再建と 民主主義を貫くこと、そ 必要があります。また、

害は「国難」ともいうべ 被害がくわわり、その被 うえに、福島原発事故の 津波による甚大な被害の 原発事故の収束に総力を 格的な前進を図らなけれ を図ることです。さら 題での国民的な合意形成 あげるとともに、原発問

動の今後の発展方向を明 運動へ発展させた中で蓄 るといえます。私達が部 帯の大急増など、これま この中で貧困問題の深刻 会の到来のもとで、人類 経験と実績を深く分析 担い手となる必然性があ 問題が社会的に噴出し、 方と異なった新たな人権 での人権問題のあらわれ ばなりません。 し、ここから地域人権運 積されてきたさまざまな 落解放運動から地域人権 これに社会運動が大きな 会構造の激変に直面し、 が経験したことのない社 いま日本は少子高齢社 人口の減少、単身世

謝し、この二日間有益な 設的な方向性を打ち出す 激変に直面している地域 るとともに、社会構造の システムの構築に貢献す のと確信します。 学習と交流の場になるも た和歌山県の皆さんに感 絶大なご協力をいただい ます。集会成功のために せ、国民が主人公の社会 の価値観を大きく転換さ 機にある中で、これまで 発事故という未曾有の危 ことになると確信してい 社会と家族のあり方に建 にさしかかっています。 本集会は、大震災と原

きく前進させることです。 まとめあげ、これをバネ 利憲章」を組織の総意で 立するために、「地域権 で克服していくととも いえる状況を国民的な力 社会」をめざす運動を大 を守る「ルールある経済 に、地域社会で人権が確 に、国民の暮らしと権利 こうした「国難」とも

めに、復興の基本的なス から構築し、住民合意と タンスを人権という立場 況を一日も早く脱するた しています。こうした状 き戦後未曽有の規模に達

災者救援のた

その一番の力となるのが 日本国憲法であり、その 興にも地方自治・国民主 たたかいです。 力を引き出すのが国民の 権・民主主義が原則で、 ではないでしょうか。復

だきます。 の経験から学び合い、運 歓迎の挨拶とさせていた 動が広がることを祈って 本研究集会が全国各地

く場所を失

を取り戻してほしい、そ

立していくのかを考える 生存権をいかに確保・確

安心と希望がもてる生活

る被災地が一日も早く、

立ち返って国民・住民の

今こそ、憲法の原点に

か。すべてを失い、生存

います。

したのではないでしょう

そのものが脅かされてい

失い、家と働 家族や知人を 震災で人々は 失いました。 本中が言葉を する光景に日

来賓あいさつ

和歌山県知事代理

ことを心からお慶び申り いた皆様方を心より歓迎 町で盛大に開催されます 国研究集会が、ここ白浜 上げますとともに、全国 におかれましては、日頃 各地からお集まりいただ また、ご参加の皆様方 第7回地域人権問題全

る次第です。

にようこそお越しくださ に参加の皆さん、和歌山 域人権問題全国研究集会

を迎え、本集会を成功さ

る人が増加しています。

回復し、自立した再出発

破壊された生活基盤を

を可能にすることは国民

この災害で被災地だけ

私たちは全国の皆さん

舞いを申し上げます

た方々への心からのお見

い、生活を失ないまし

れが国民みんなの願いで

た。フクシマでは原発が

停止するどころか避難す

全国各地から第7回地

会を代表して心より歓迎 いました。現地実行委員

いたします。

性となられた方々への深

まず東日本大震災で犠

の3月11日に地震・津波

う。働くとは、生活する

家族とはなんだろ

でなく私たちも生きると

開きました。その後、あ 行委員会を、2月26日に せるため、第1回現地実

い哀悼とともに被災され

曾有の災害が起こりまし

た。想像を絶

ういうことなのか。と様

々なことを自分に問い直

べての人が安心して平和

に暮らす権利が謳われて

乏」から免れる権利、す 文では、「恐怖」や「欠 が定められています。前 13条で国民の幸福追求権 25条で国民の生存権が、 の権利です。憲法では、

とは、国民を守るとはど とはどういうことか。国

原発事故という戦後未

権尊重の社会づくりに向 から人権問題の解決と人 のが、政治と行政の役割

意義は大きいと考えま 域社会に」が討議される 会のテーマ「憲法を暮ら る年に、まさに本研究集 しに活かし、住みよい地 日本の歴史に記憶され

う理念のも

である」とい について平等

と、国におい

ては人権に係

や様々な施策 る法律の整備

国、市町村、

企業、団体

てご挨拶といたします。

### ごあいさつを頂いた来賓の方々

• 和歌山県知事(代理)和歌山県企画部長 柏原康文氏

· 国民融合全国会議事務局長 大同啓五氏

水本雄三氏

尾川昌法氏

・和歌山県白浜町長

• 部落問題研究所常務理事

けて、日々熱心に取り組 まれていることに対しま 世界人権宣言の「すべて 繰り返された20世紀への という最大の人権侵害が して、心から敬意を表す の人間は生まれながらに 紀」と呼ばれています。 反省を込めて<br />
「人権の世 さて、21世紀は、戦争 企画部長 ど、より対応の強化が求 さわしいものとするため や女性への暴力、インタ 紀を「人権の世紀」にふ が実施されるなど、21世 柏原 められる問題に加え、職 児童及び高齢者への虐待 の取組が進められています。 ーネット上の人権侵害な しかしながら、近年、

基本方針」 など、新たな 場におけるハラスメント びに「和歌山県人権施策 重の社会づくり条例」並 ため、「和歌山県人権尊 な課題に的確に対応する しています。 和歌山県で に基づき、 は問題が発生 はこのよう します。 ご活躍を祈念いたしまし

して自由であり、かつ、

尊厳と権利と

前列左から くりに向けて、それぞれ 究報告や討論を通じて見 働き、集い、学び、活動 ら、「和歌山県に住み、 等と連携・協力しなが の地域や職場などで大い 解決と人権尊重の社会づ 識や交流を深めていただ 尊重される社会」の実現 するすべての人の人権が んでいるところです。 に活躍されることを期待 くとともに、人権問題の に向け、総合的に取り組 ご参加の皆様には、研 ·日本共産党衆議院議員 宮本岳志氏

尽力に深く敬意を表する 関係の方々の多大なるご 研究集会の開催にあたり とともに、ご参加の皆様 万の今後益々のご健勝と 最後になりましたが本